

**現在の景気：**県内景気は、全体としてはコロナ禍による落ち込みから持ち直しの動きが続いているが、対面サービス業種で足踏みが続くなど、一部で弱さがみられる。業種別にみると、製造業では、世界貿易回復などに支えられた改善が続いている。一方、非製造業では、引き続き外食・娯楽・宿泊など対面サービス業種で弱めの動きとなっている。これまでの県内景気の牽引要因、すなわち、①建設や食品製造業などの企業業績堅調、②交通インフラ整備関連などの豊富な官民プロジェクト、などに大きな変化はない。

**3か月程度の見通し：**非製造業の一部（対面サービス業種）では、引続き感染状況などに左右され、不透明感が強いが、製造業では持ち直しが続く見込みであり、業種間のバラツキを伴いつつ、全体として回復基調を維持する。対面サービス業種の持ち直し時期は、感染状況やワクチンの接種ペースなどに大きく依存する。

**個人消費：**①停滞。②7月の県内百貨店（存続店ベース）の売上は、前年同月比0.9%減と2か月連続で前年を下回った（前々年対比では15.7%減）。感染拡大の影響からシニア層の出控えが続いており、8月には、食料品売り場などへの入場制限に踏み切る先もみられた。7月の自動車販売台数は同11.0%減と8か月ぶりに前年を下回った（前々年比は23.1%減）。一般乗用車（同2.6%増）は増加したが、軽乗用車（同23.7%減）は減少した。

**住宅建築：**①増加基調。②7月の新設住宅着工戸数は、前年同月比10.0%増加し、2か月連続で前年を上回った。分譲は（前年同月比1.8%減）は減少したが、貸家（同23.2%増）、持家（同8.7%増）が増加した。

**設備投資：**①増加。②国土交通省の「建設着工統計」（非居住用）によると、7月の工事床面積（年度累計）は前年度比68.6%増加し、工事予定額も同32.1%増加した。日本政策投資銀行の「首都圏設備投資計画調査（6月実施）」では、21年度の県内計画額は成田空港第3ターミナル増築など運輸の大型投資がけん引し、前年度比35.3%増となった。

**公共工事：**①減少。②7月の県内公共工事請負額（年度累計）は、前年同月比14.2%減少した。国（同25.9%増）、市町村（同7.8%増）は増加したが、県（同3.0%減）、独立行政法人（同71.3%減）が減少した。

**輸出：**①増加。②7月の成田、千葉、木更津3港合計通関輸出額は、前年同月比37.0%増と5か月連続で増加した（前々年比は25.6%増）。成田空港では、中国向けの半導体等製造装置（前年同月比37.1%増）や科学光学機器（同47.9%増）などの増加により、同34.8%増と5か月連続で前年を上回った。千葉港は、石油製品（同157.9%増）や鉄鋼（同29.5%増）などの増加により、同63.1%増と3か月連続で前年を上回った。木更津港は、鉄鋼（同105.9%増）や自動車（同154.3%増）などの増加により、同116.4%増と4か月連続で前年を上回った。

**生産活動：**①増加。②6月の県鉱工業生産指数（季調済）は、98.1（前月比2.3%上昇）と4か月連続で上昇した。主力の食料品工業（同5.6%上昇）や石油・石炭製品工業（同6.4%上昇）が上昇した。

**観光：**①低調。②自粛の継続に伴う時短営業や入場者数制限などから、観光施設や宿泊施設の入り込みは弱めの動きが続いている。県内では、夏祭りや花火大会などのイベントが相次いで、中止や縮小となった。

**雇用情勢：**①横ばい。②7月の有効求人倍率（季調値）は、前月比0.01ポイント上昇の0.89倍と3か月ぶりに前月を上回った。有効求職者数（同1.2%減）の減少が有効求人数（同0.4%減）の減少を上回った。

### 【トピックス】

- ・県は基本的な県政運営方針である新たな総合計画の骨子案を公表した（6日）。熊谷知事就任後、初の総合計画で、危機管理や産業・社会資本など6項目に関し目指す姿を掲げている。骨子案をベースに県民や有識者らの意見を踏まえて計画をとりまとめ、3月末までに完成させる。
- ・東京パラリンピックが原則無観客で開催（24日～9月5日）され、県内では、幕張メッセでゴールボールや車いすフェンシングなど4競技が実施された。学校連携観戦は、千葉市だけで引率者を含め約28,400枚のチケットが割り当てられたが、引率者等の感染が確認されたことから、開始直後に中止となった。